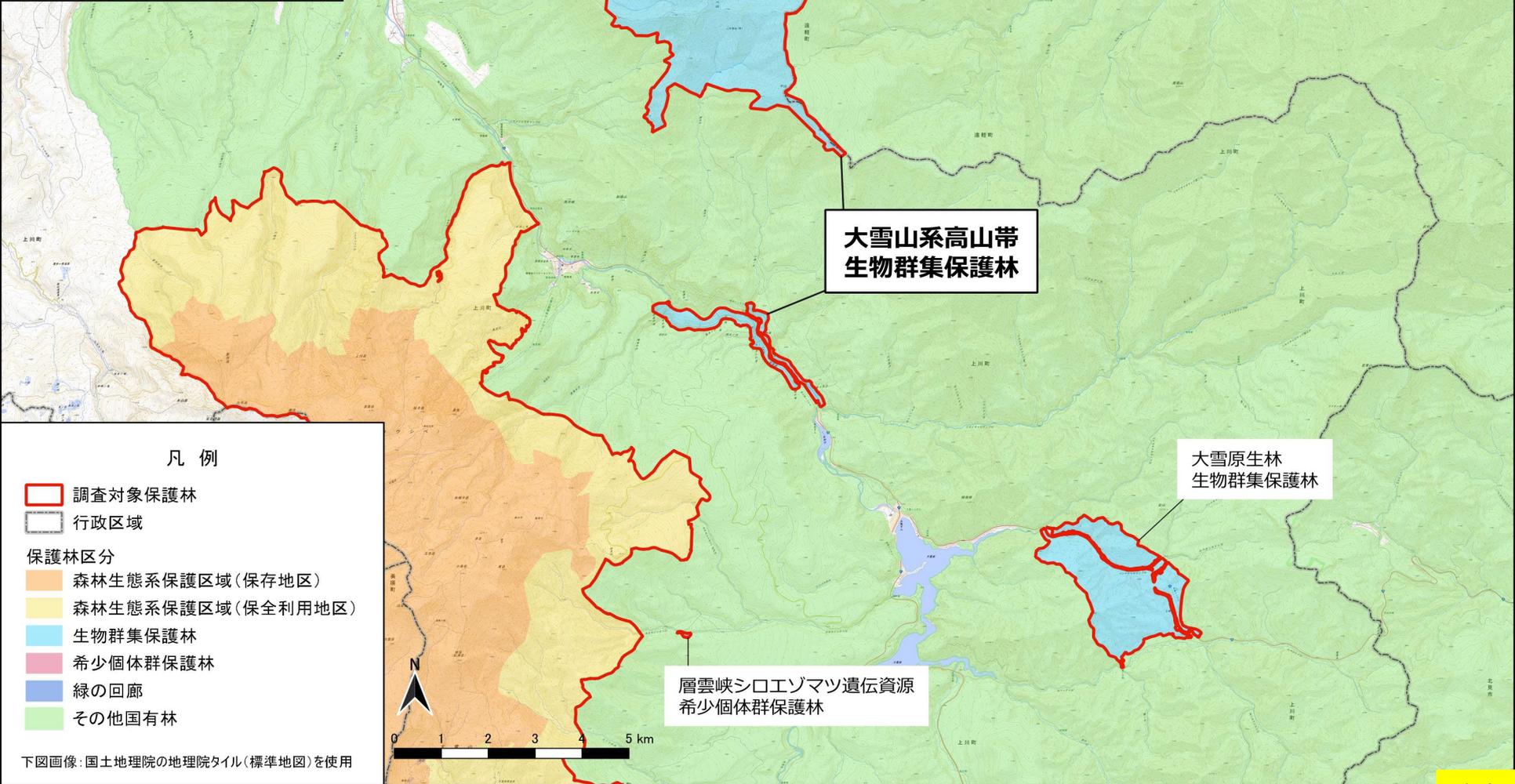
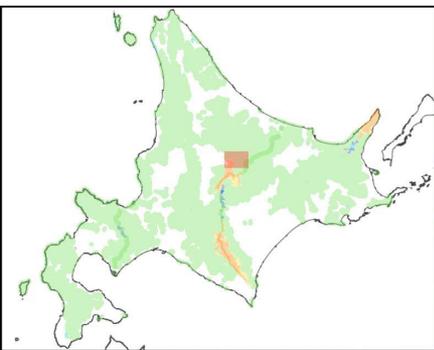


20009 大雪山系高山帶生物群集保護林



大雪山系高山帯
生物群集保護林

大雪原生林
生物群集保護林

層雲峡シロエゾマツ遺伝資源
希少個体群保護林

- 凡例
- 調査対象保護林
 - 行政区域
- 保護林区分
- 森林生態系保護区域(保存地区)
 - 森林生態系保護区域(保全利用地区)
 - 生物群集保護林
 - 希少個体群保護林
 - 緑の回廊
 - その他国有林

下図画像: 国土地理院の地理院タイル(標準地図)を使用

20009 大雪山系高山帯生物群集保護林 (1,340.49ha)

保護林設定 目的と経緯

- ・多数の高山植物群落を擁する大雪山系高山帯及びこれに続く亜寒帯林に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持等に資することを目的とする。
- ・昭和50(1975)年4月1日に、「大雪山系高山帯保護林」として設定された。
- ・平成23(2011)年4月1日に一部地域が森林生態系保護地域へ統合された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「大雪山系高山帯生物群集保護林」として設定された。

保護対象と 生息・生育 区域

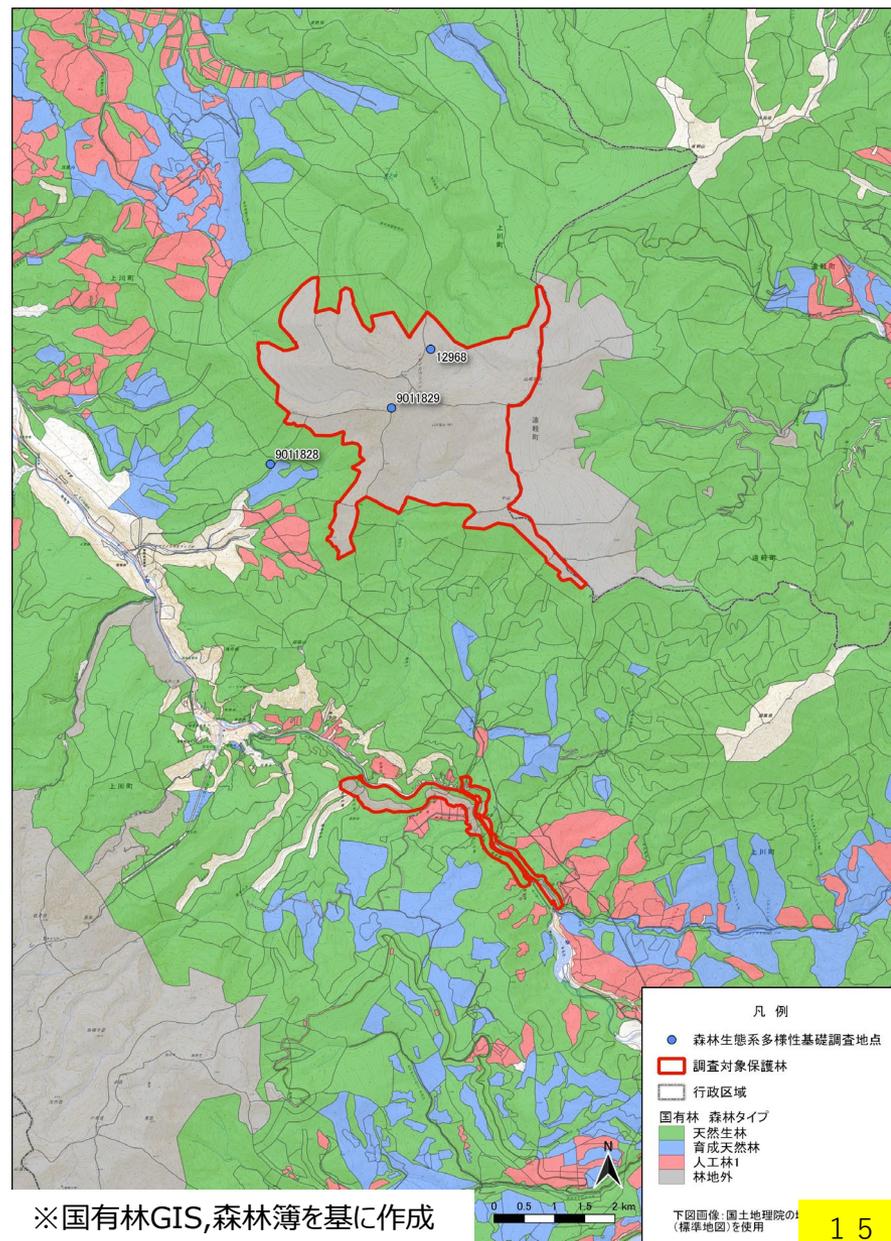
・大雪山系高山帯の生物群集を有する森林

想定される 影響等

次ページ以降参照

地帯区分 (案)

次ページ以降の参照資料を基に判断する



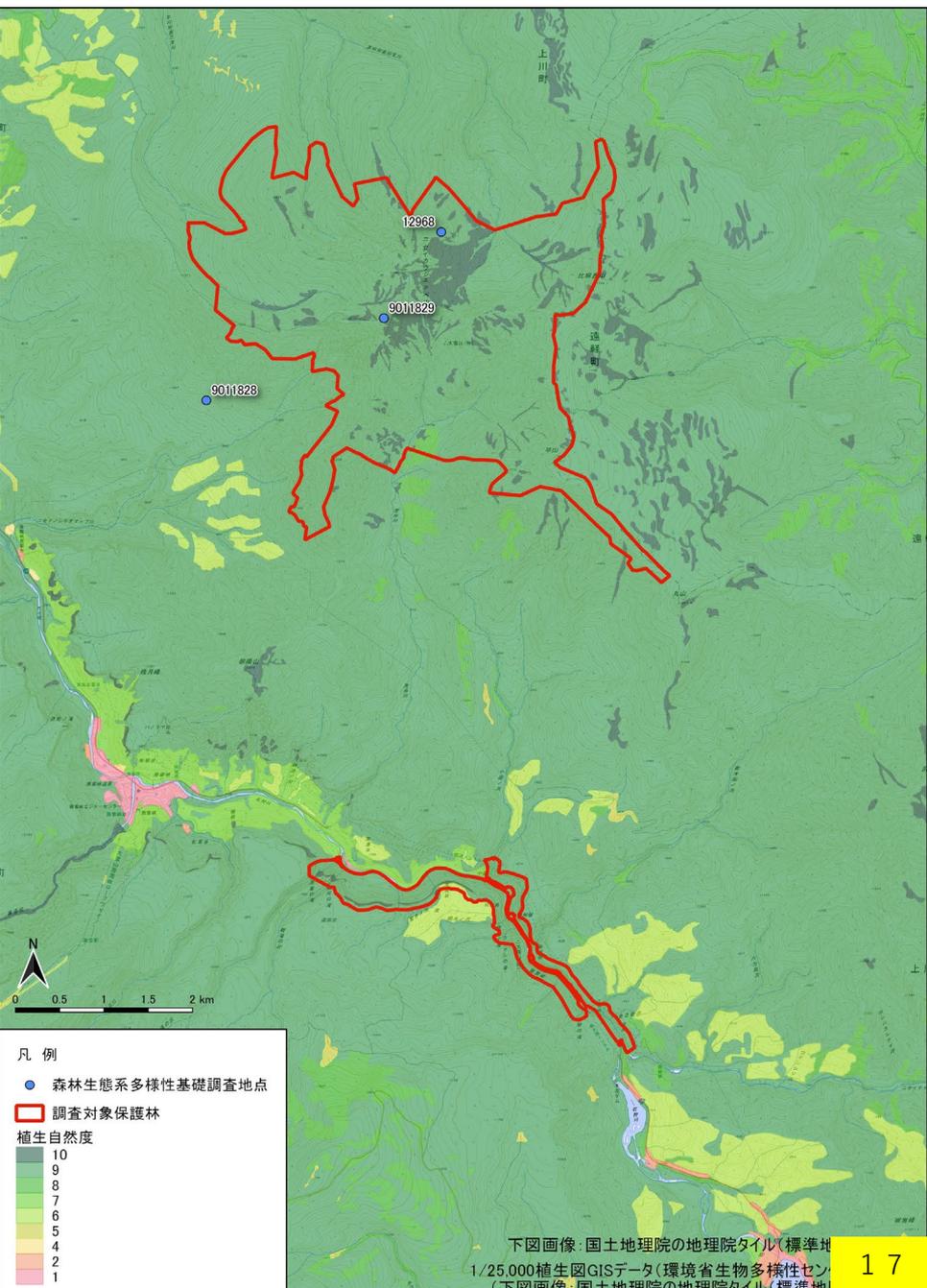
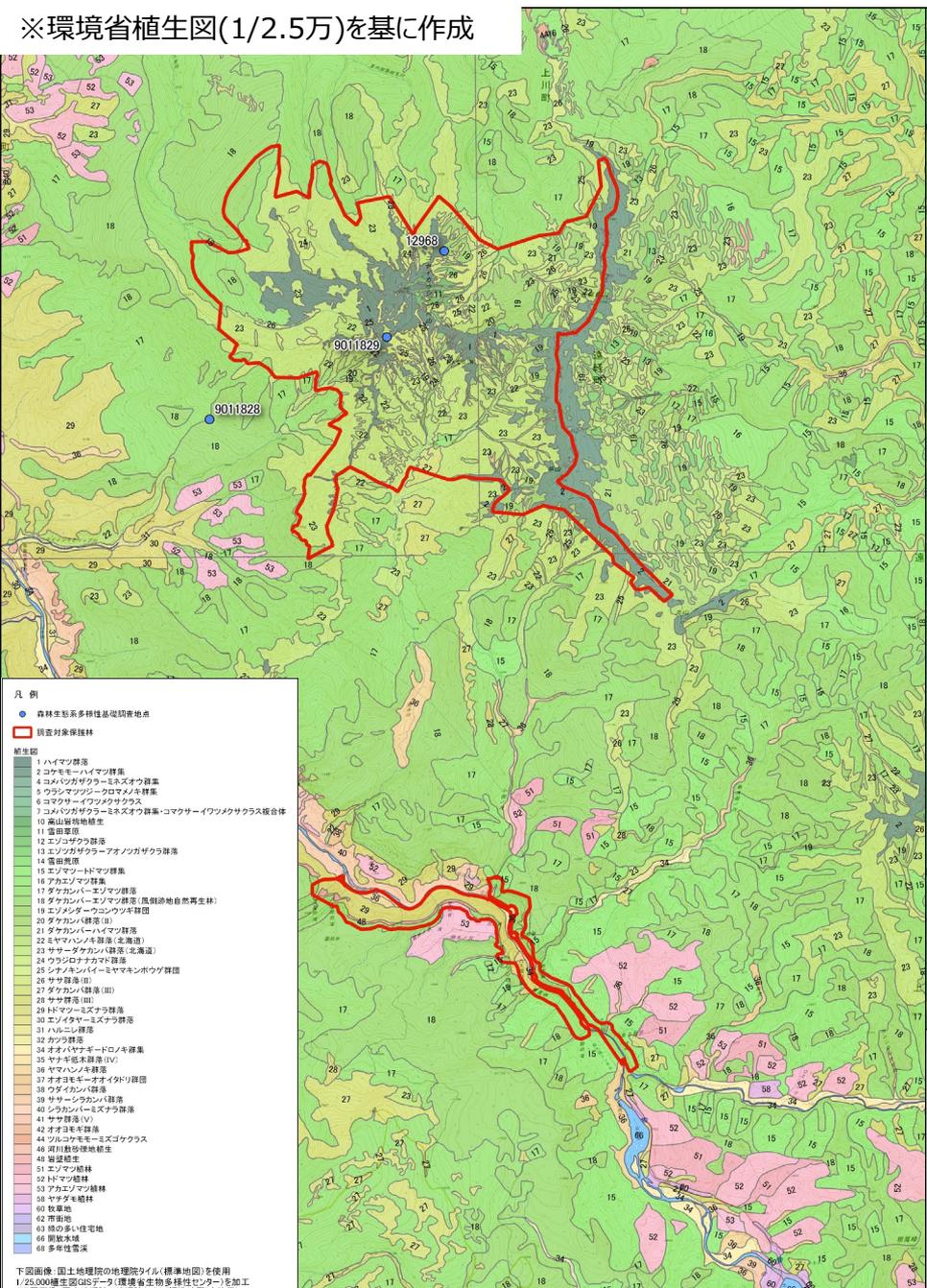
保護林の外観 ニセイカウシュツペ山山頂よりプロット方向を望む



植生図 & 植生自然度図

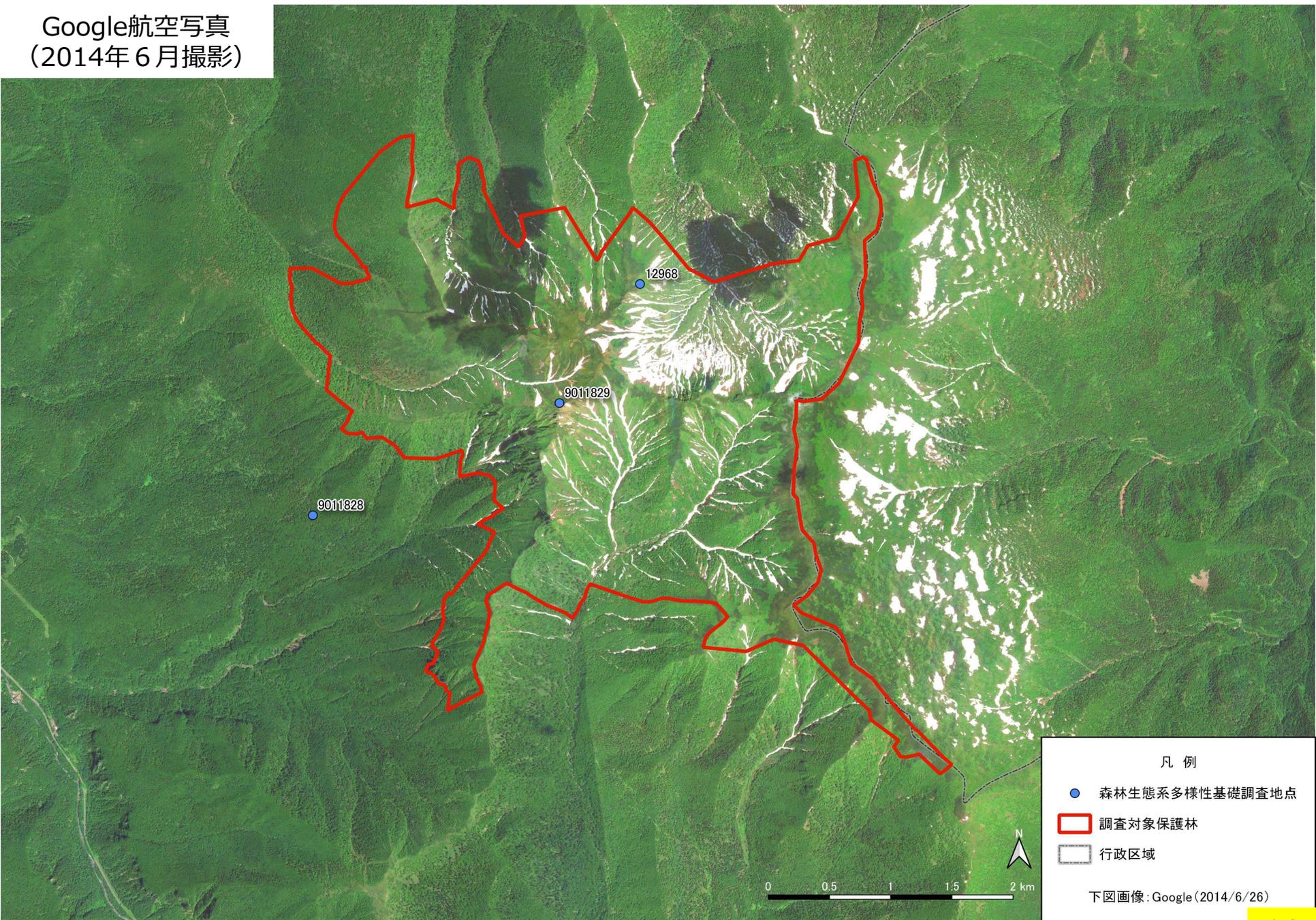
※環境省植生図(1/2.5万)を基に作成

※植生自然度は、環境省自然環境局生物多様性センター「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」.pdf (環生多発第1603312号 平成28年3月31日) を参考とした。



大雪山系高山帯生物群集保護林 調査プロットの概況(森林生態系多様性基礎調査)

Plot	調査地の状況																						
12968		植生: 針葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: やせ尾根(傾斜 7°)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>ハイマツ</td> <td>0.6~2.7</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>キバナシヤクナゲ、ウラシマツツジ、ガンコウラン等</td> <td>0.1~0.5</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	-	-	-	亜高	-	-	-	低木	ハイマツ	0.6~2.7	90	草本	キバナシヤクナゲ、ウラシマツツジ、ガンコウラン等	0.1~0.5	30
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																				
高木	-	-	-																				
亜高	-	-	-																				
低木	ハイマツ	0.6~2.7	90																				
草本	キバナシヤクナゲ、ウラシマツツジ、ガンコウラン等	0.1~0.5	30																				
9011828		植生: 落葉広葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹平衡斜面(傾斜 35°)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ダケカンバ</td> <td>8~10</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>ミネカエデ、ハイマツ、ナナカマド等</td> <td>1.5~4.5</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チシマザサ、ミネカエデ、オオバスノキ等</td> <td>0.1~1.6</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	ダケカンバ	8~10	50	亜高	-	-	-	低木	ミネカエデ、ハイマツ、ナナカマド等	1.5~4.5	90	草本	チシマザサ、ミネカエデ、オオバスノキ等	0.1~1.6	90
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																				
高木	ダケカンバ	8~10	50																				
亜高	-	-	-																				
低木	ミネカエデ、ハイマツ、ナナカマド等	1.5~4.5	90																				
草本	チシマザサ、ミネカエデ、オオバスノキ等	0.1~1.6	90																				
9011829		植生: 針葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹平衡斜面(傾斜 34°)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>ハイマツ、タカネナナカマド</td> <td>0.8~1.5</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>キバナシヤクナゲ、ゴゼンタチバナ、ミツバオウレン等</td> <td>0.1~0.5</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	-	-	-	亜高	-	-	-	低木	ハイマツ、タカネナナカマド	0.8~1.5	100	草本	キバナシヤクナゲ、ゴゼンタチバナ、ミツバオウレン等	0.1~0.5	30
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																				
高木	-	-	-																				
亜高	-	-	-																				
低木	ハイマツ、タカネナナカマド	0.8~1.5	100																				
草本	キバナシヤクナゲ、ゴゼンタチバナ、ミツバオウレン等	0.1~0.5	30																				

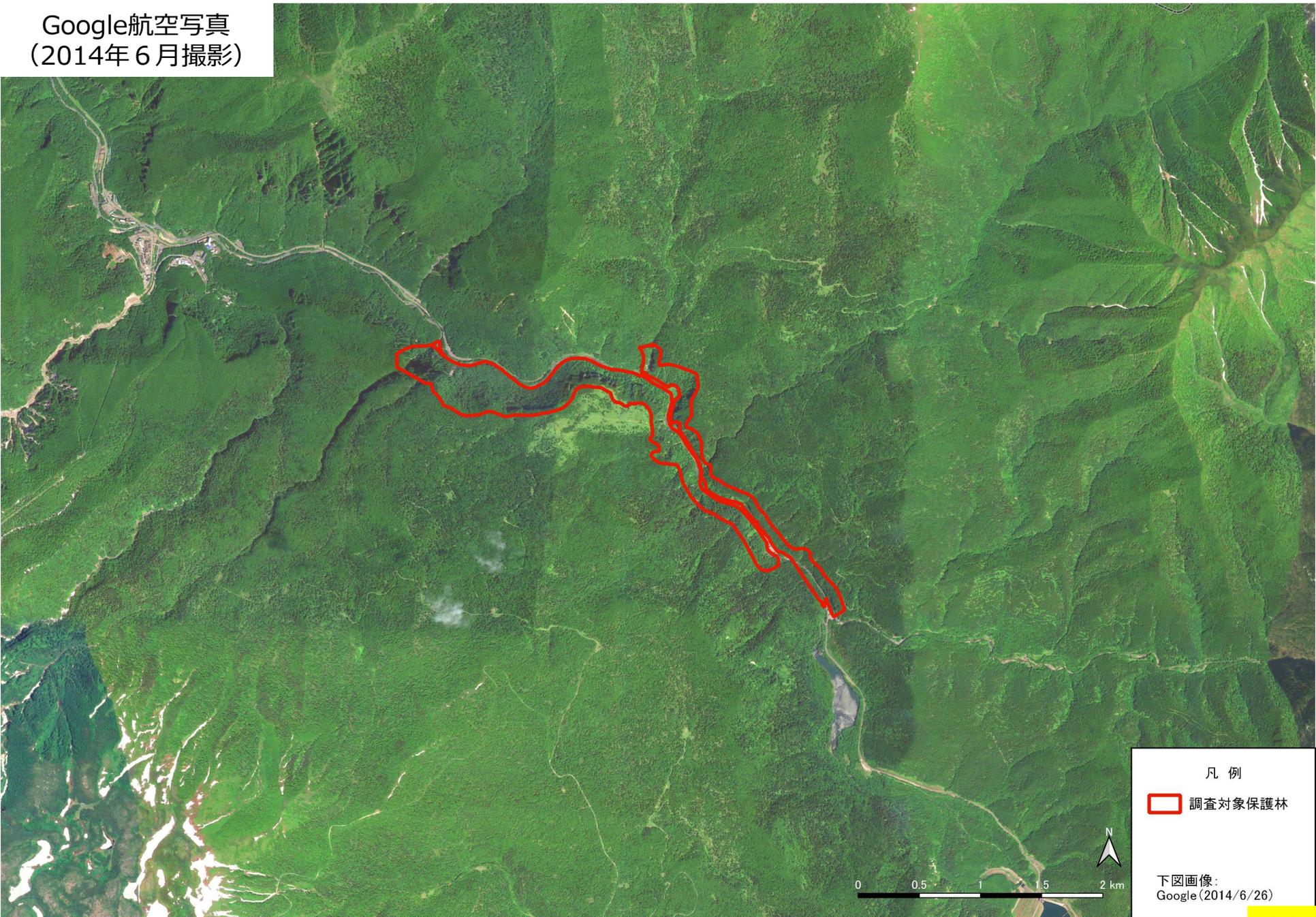


凡例

- 森林生態系多様性基礎調査地点
- 調査対象保護林
- 行政区域

下図画像: Google (2014/6/26)

Google航空写真
(2014年6月撮影)



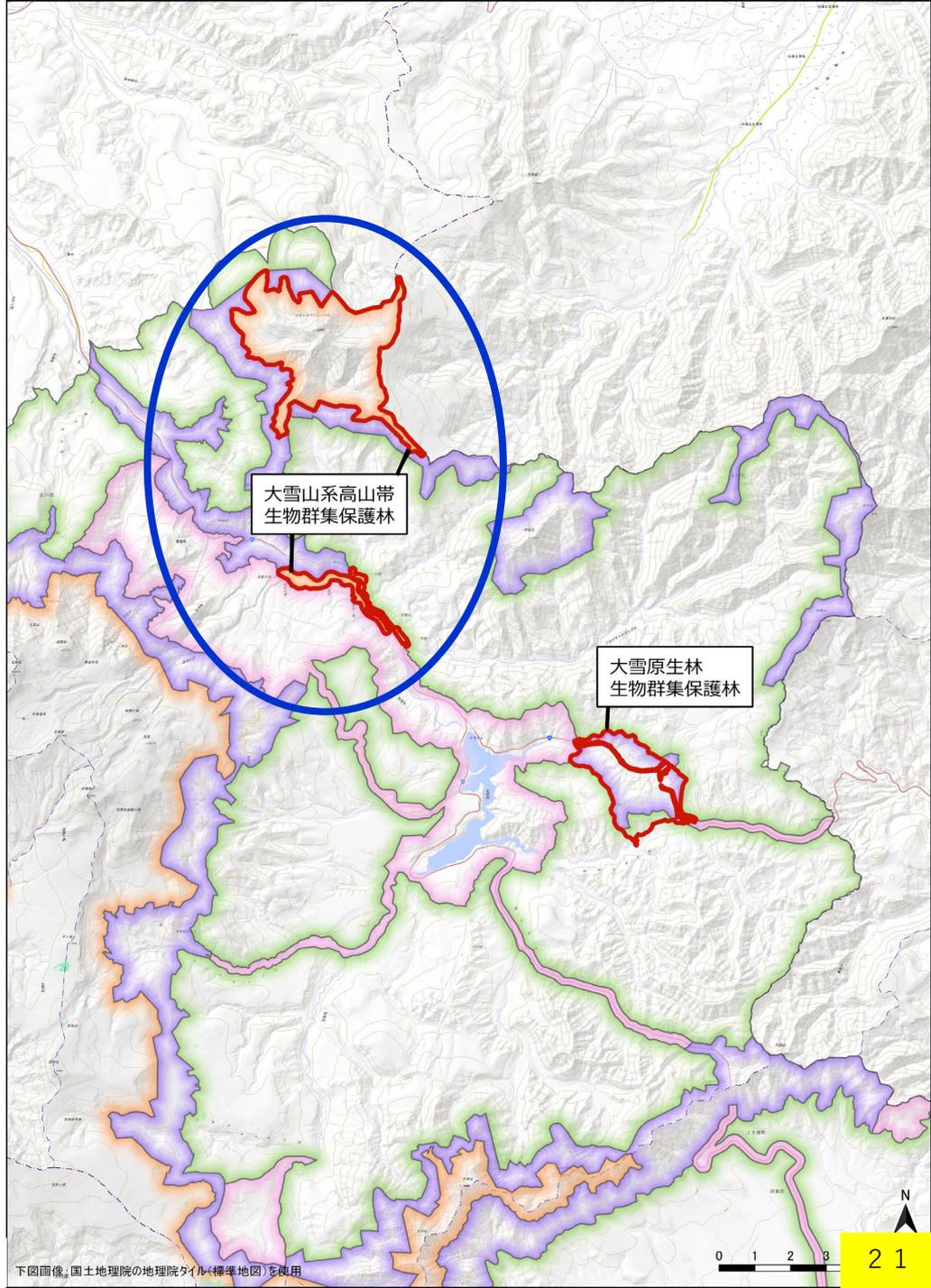
凡例

 調査対象保護林

下図画像:
Google (2014/6/26)

大雪山国立公園 区域図 (一部抜粋)

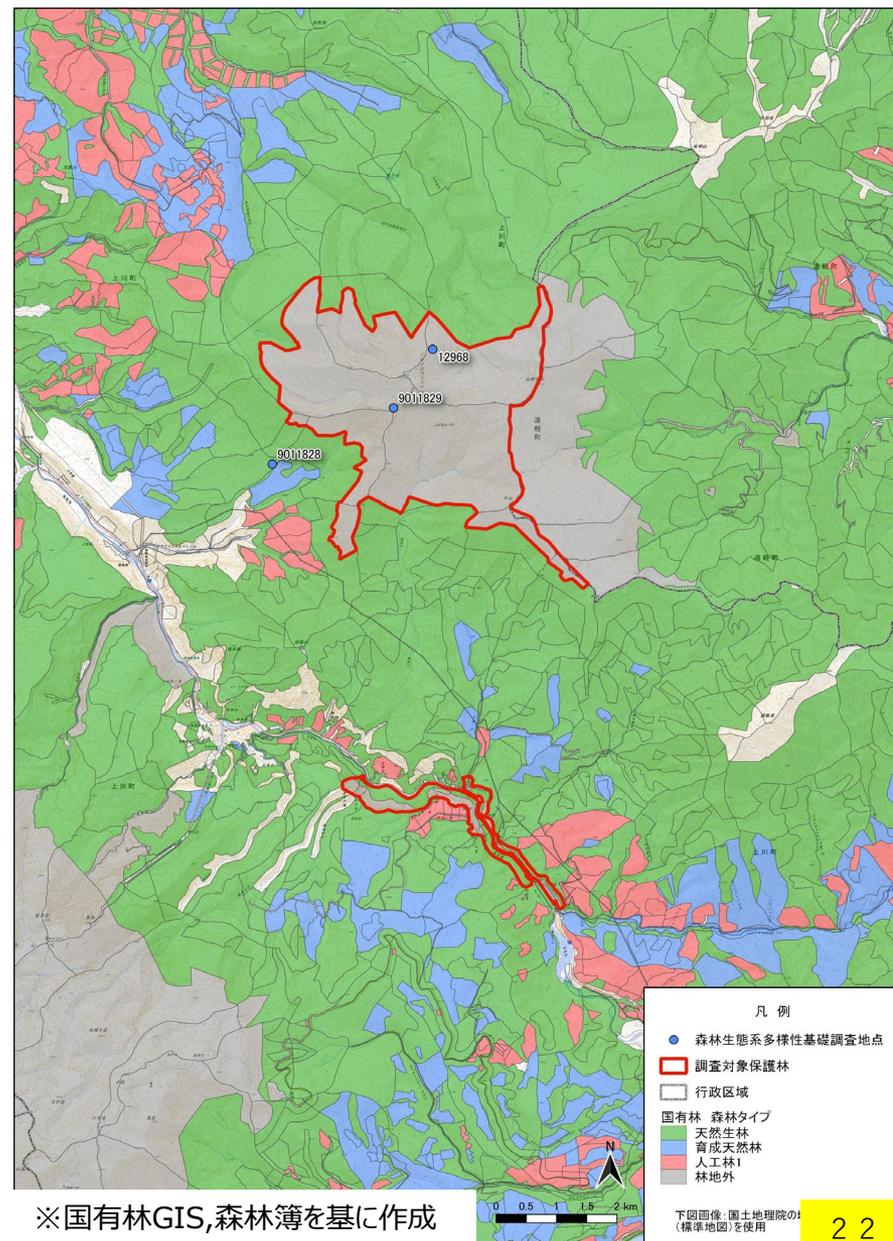
本保護林の全域が大雪山国立公園に含まれており、全域が特別保護地区に指定されている。



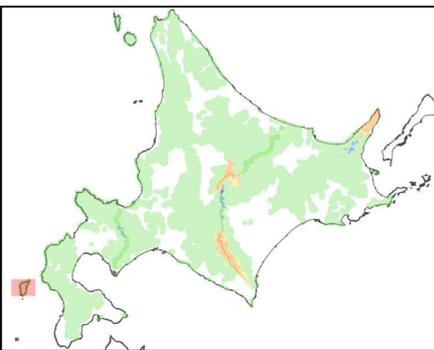
20009 大雪山系高山帯生物群集保護林 (1,340.49ha)

提 案

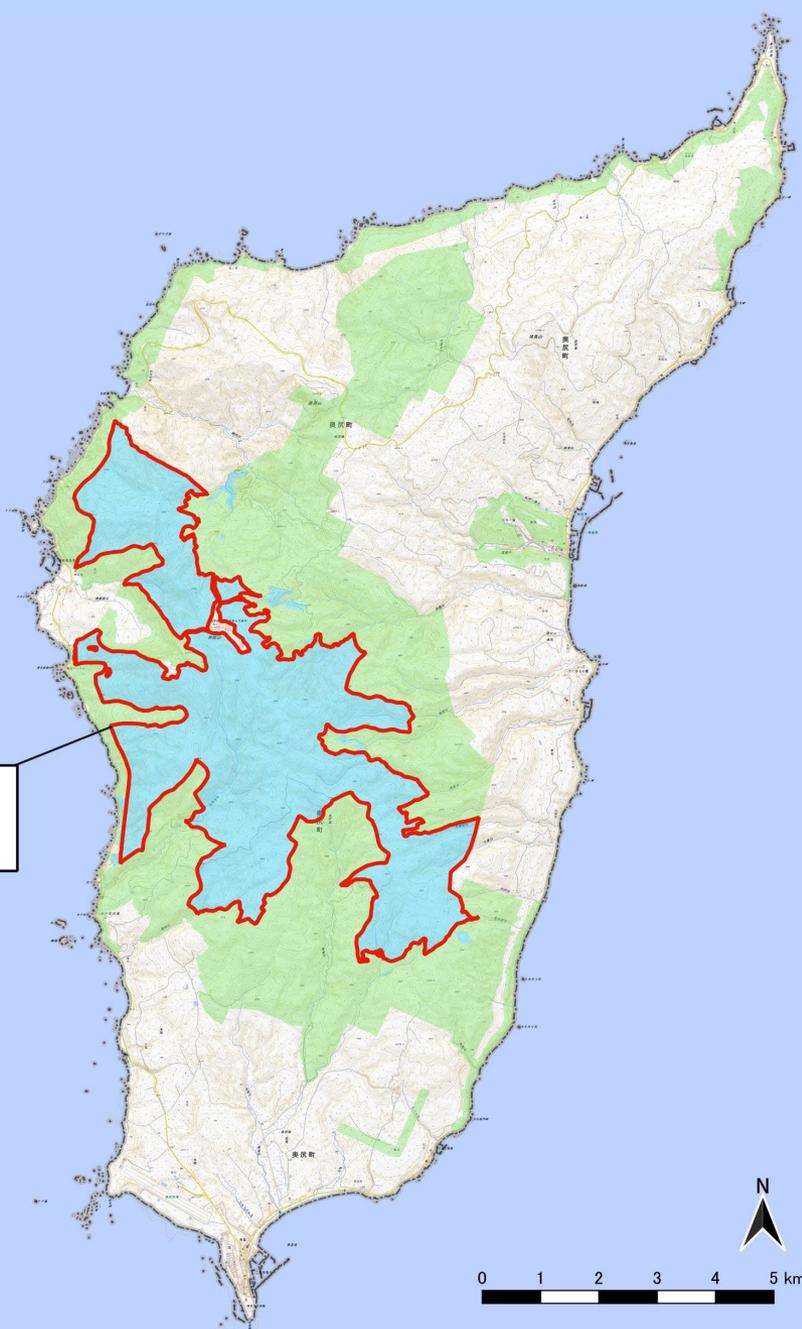
<p>保護林設定 目的と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の高山植物群落を擁する大雪山系高山帯及びこれに続く亜寒帯林に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持等に資することを目的とする。 ・昭和50(1975)年4月1日に、「大雪山系高山帯保護林」として設定された。 ・平成23(2011)年4月1日に一部地域が森林生態系保護地域へ統合された。 ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「大雪山系高山帯生物群集保護林」として設定された。
<p>保護対象と 生息・生育 区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大雪山系高山帯の生物群集を有する森林
<p>想定される 影響等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護林の全域が大雪山国立公園の特別保護地区に含まれる。 ・保護林の外周は大部分が天然生林および育成天然林に囲まれているため、保護林区域への環境の急激な変化は想定されないものとする。
<p>地帯区分 (案)</p>	<p>全域、保存地区とする。</p>



20019 奥尻島生物群集保護林



奥尻島
生物群集保護林



凡例

- 調査対象保護林
- 行政区域

保護林区分

- 森林生態系保護区域(保存地区)
- 森林生態系保護区域(保全利用地区)
- 生物群集保護林
- 希少個体群保護林
- 緑の回廊
- その他国有林

下図画像:国土地理院の地理院タイル(標準地図)を使用

20019 奥尻島生物群集保護林 (2,285.33ha)

保護林設定 目的と経緯

- ・奥尻島のブナを主体とする天然林に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持等に資することを目的とする。
- ・平成8(1996)年4月1日に、「奥尻植物群落保護林」として設定された。
- ・平成24(2012)年4月1日に保護林区域が拡充された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「生物群集保護林」として設定された。

保護対象と 生息・生育 区域

- ・奥尻島の生物群集を有する森林

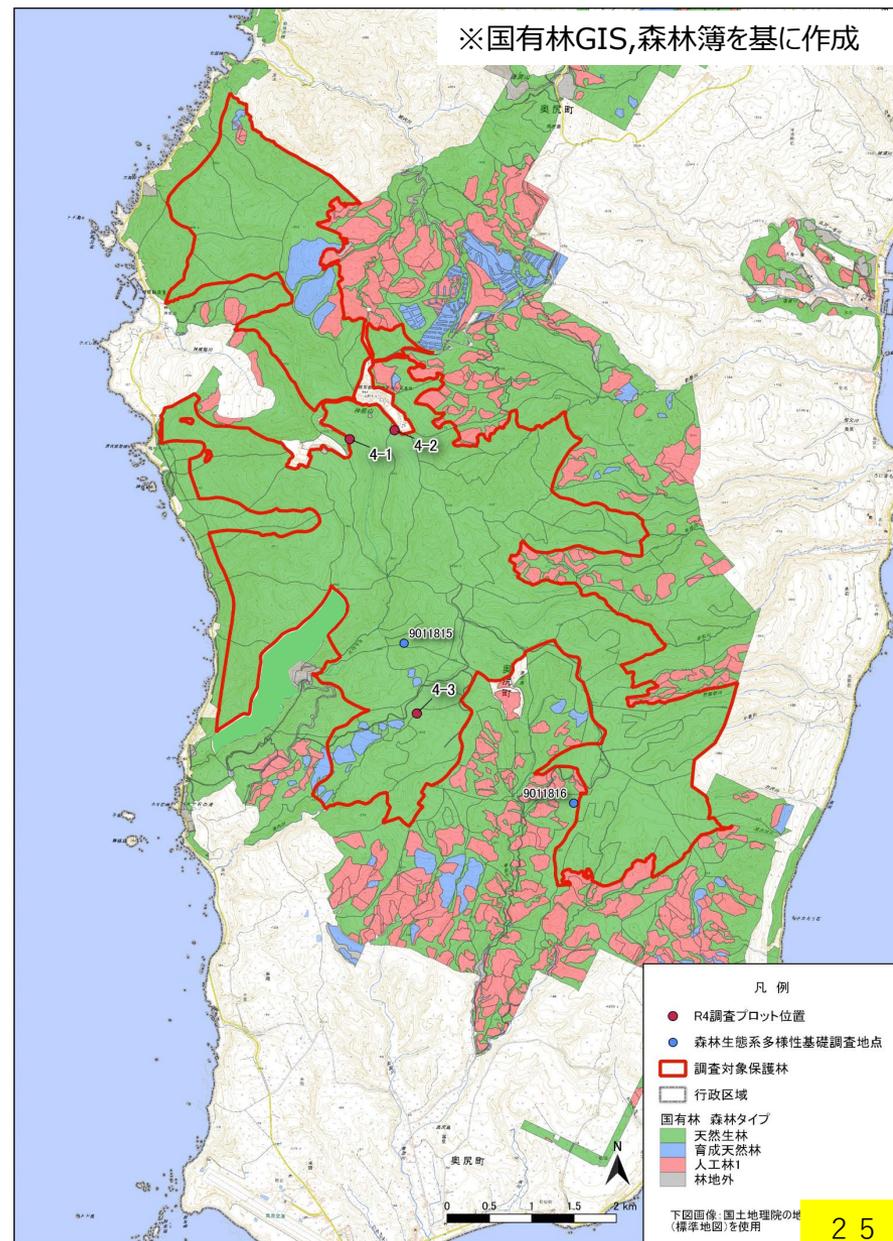
想定される 影響等

次ページ以降参照

地帯区分 (案)

次ページ以降の参照資料を基に判断する

※国有林GIS,森林簿を基に作成



奥尻島全景



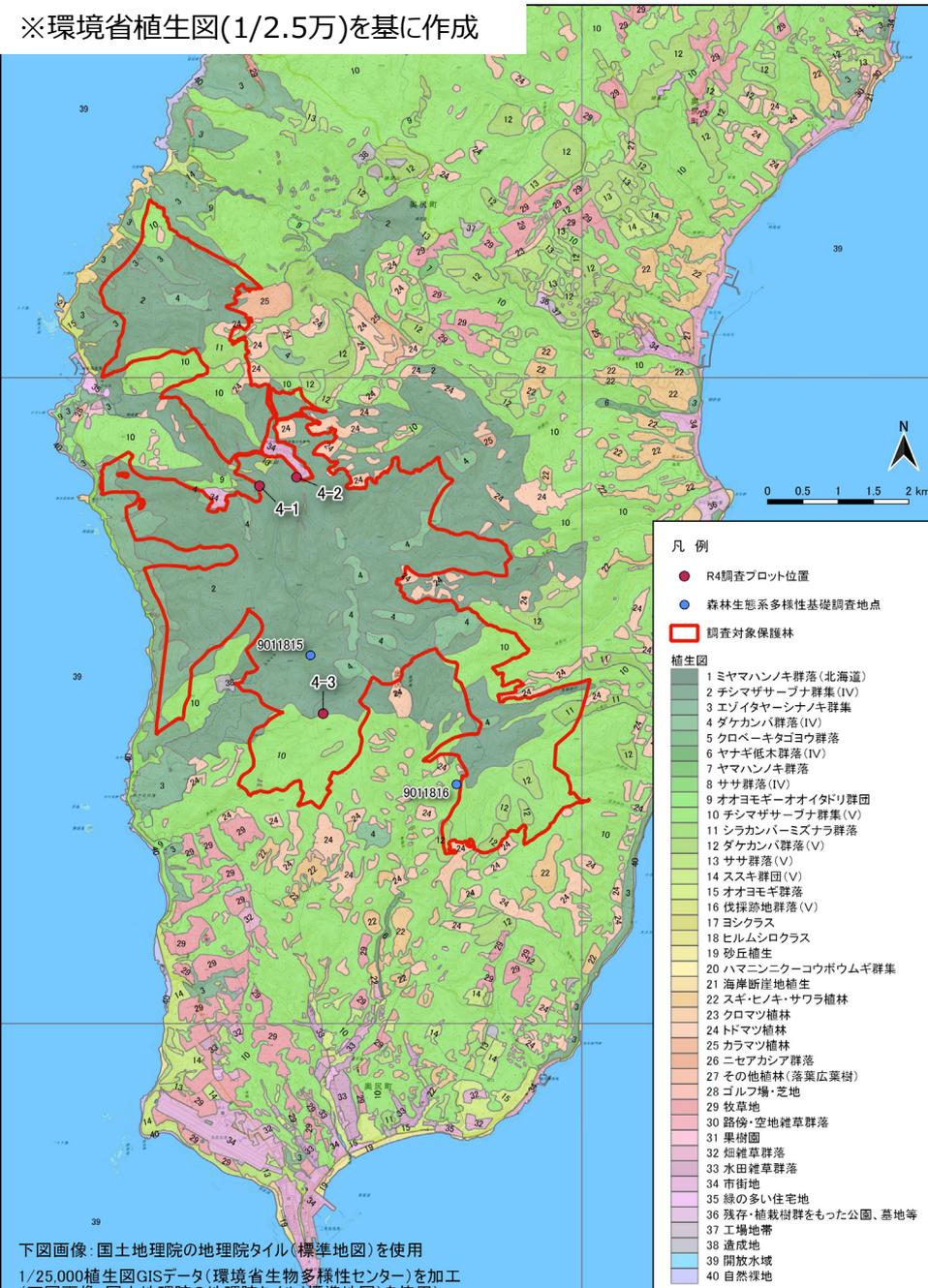
島の西側の道道39号より保護林方向を望む



植生図 & 植生自然度図

※植生自然度は、環境省自然環境局生物多様性センター「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」.pdf（環生多発第1603312号 平成28年3月31日）を参考とした。

※環境省植生図(1/2.5万)を基に作成



奥尻島生物群集保護林 調査プロットの概況(保護林プロット1)

植生		植生ランク		地形			
落葉広葉樹林		植生自然度 9		山腹平衡斜面(傾斜 10°)			
H25			R4				
							
層	優占種等	高さ (m)	植被 (%)	層	優占種等	高さ (m)	植被 (%)
高木	ブナ	11~18	100	高木	シナノキ、ブナ、ダケカンバ	7~15	90
亜高	ブナ	5~10	10	亜高	ブナ	5~10	20
低木	ハウチワカエデ	4~6	10	低木	ノリウツギ	3	1
草本	クマイザサ等	0.1~2	100	草本	クマイザサ等	0.1~2.3	100

健全な林分であり、大きな変化はない

奥尻島生物群集保護林 調査プロットの概況(保護林プロット2)

植生		植生ランク		地形			
落葉広葉樹林		植生自然度 9		山腹平衡斜面(傾斜 5°)			
H25			R4				
							
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)
高木	シナノキ、ブナ	7~15	90	高木	ブナ、シナノキ	16~19	80
亜高	シナノキ	5~10	20	亜高	シナノキ	10	5
低木	ノリウツギ	3	1	低木	ノリウツギ	3	1
草本	チマキザサ等	0.1~2.3	100	草本	チマキザサ等	0.1~2.3	100

健全な林分であり、大きな変化はない

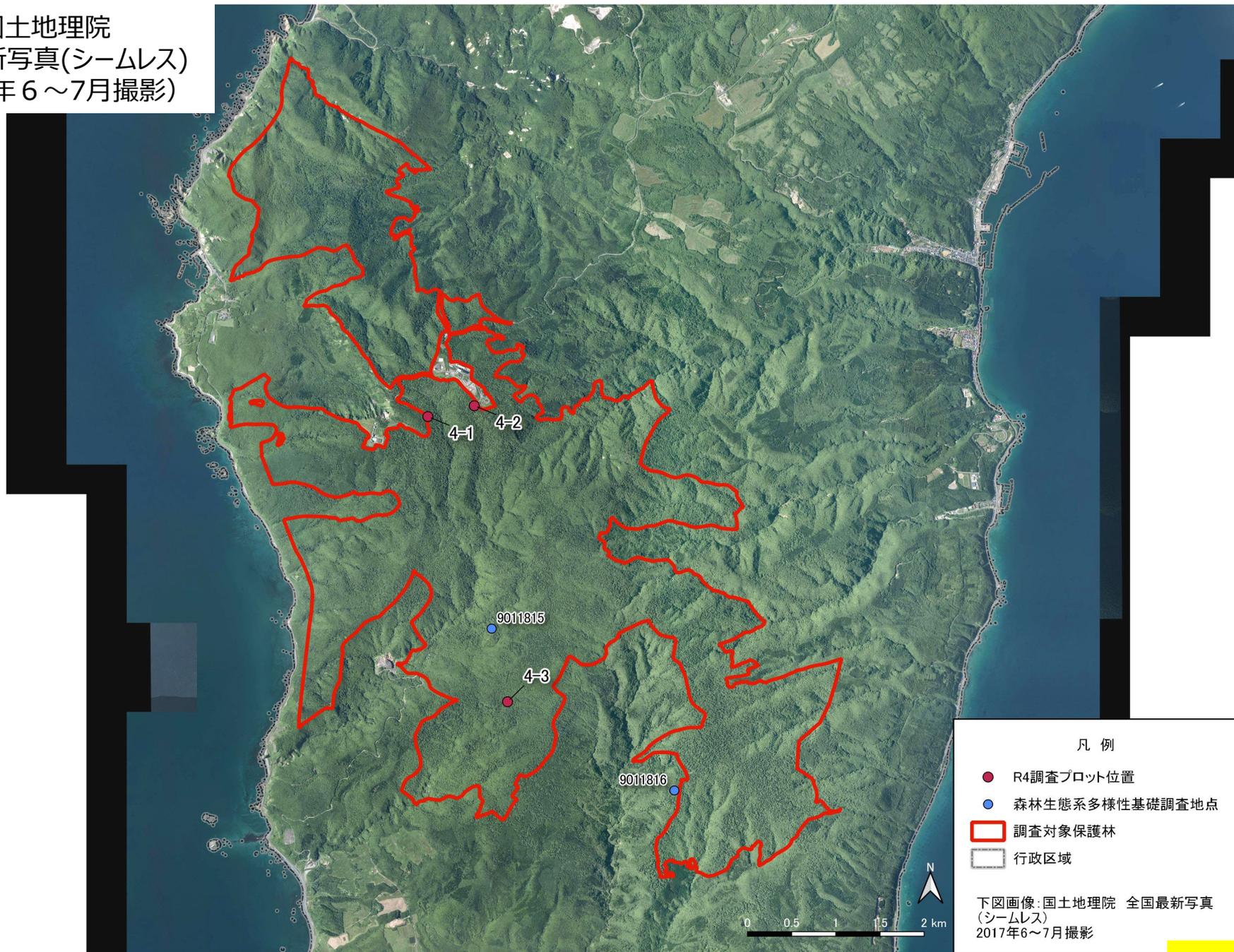
奥尻島生物群集保護林 調査プロットの概況(保護林プロット3)

植生		植生ランク	地形																																									
落葉広葉樹林		植生自然度 9	山腹平衡斜面(傾斜 10°)																																									
H25			R4																																									
																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ブナ、エゾイタヤ</td> <td>15~22</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ハウチワカエデ</td> <td>9~14</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>エゾノウワミズザクラ</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チマキザサ</td> <td>0.1~2.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>			層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	ブナ、エゾイタヤ	15~22	80	亜高	ハウチワカエデ	9~14	10	低木	エゾノウワミズザクラ	4	5	草本	チマキザサ	0.1~2.5	100	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ブナ</td> <td>16~23</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ハウチワカエデ</td> <td>7~12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>エゾノウワミズザクラ</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チマキザサ</td> <td>0.1~2.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>※中心杭は発見されず。GPS 箇所より地点を再現</p>		層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	ブナ	16~23	90	亜高	ハウチワカエデ	7~12	10	低木	エゾノウワミズザクラ	4	5	草本	チマキザサ	0.1~2.5	100
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																																									
高木	ブナ、エゾイタヤ	15~22	80																																									
亜高	ハウチワカエデ	9~14	10																																									
低木	エゾノウワミズザクラ	4	5																																									
草本	チマキザサ	0.1~2.5	100																																									
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																																									
高木	ブナ	16~23	90																																									
亜高	ハウチワカエデ	7~12	10																																									
低木	エゾノウワミズザクラ	4	5																																									
草本	チマキザサ	0.1~2.5	100																																									

健全な林分であり、大きな変化はない

奥尻島生物群集保護林 調査プロットの概況 (森林生態系多様性基礎調査)

Plot	調査地の状況																					
9011815		<p>植生: 落葉広葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹凸斜面 (傾斜 19.5°)</p> <table border="1" data-bbox="1062 337 1765 705"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ブナ、アカイタヤ</td> <td>12~22</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ブナ</td> <td>6~10</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>ハウチワカエデ、アカイタヤ等</td> <td>1.5~5.5</td> <td>40~50</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チシマザサ、ツルシキミ等</td> <td>0.1~1.5</td> <td>80~90</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ (m)	植被 (%)	高木	ブナ、アカイタヤ	12~22	100	亜高	ブナ	6~10	30	低木	ハウチワカエデ、アカイタヤ等	1.5~5.5	40~50	草本	チシマザサ、ツルシキミ等	0.1~1.5	80~90
層	優占種等	高さ (m)	植被 (%)																			
高木	ブナ、アカイタヤ	12~22	100																			
亜高	ブナ	6~10	30																			
低木	ハウチワカエデ、アカイタヤ等	1.5~5.5	40~50																			
草本	チシマザサ、ツルシキミ等	0.1~1.5	80~90																			
9011816		<p>植生: 落葉広葉樹林 植生ランク: 植生自然度 8 地形: 山腹平衡斜面 (傾斜 15°)</p> <table border="1" data-bbox="1062 973 1765 1322"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ブナ、シナノキ、ダケカンバ</td> <td>16~21</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ブナ</td> <td>7~14</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>オオカメノキ</td> <td>2~6</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チマキザサ</td> <td>0.1~3.5</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ (m)	植被 (%)	高木	ブナ、シナノキ、ダケカンバ	16~21	40	亜高	ブナ	7~14	30	低木	オオカメノキ	2~6	20	草本	チマキザサ	0.1~3.5	90
層	優占種等	高さ (m)	植被 (%)																			
高木	ブナ、シナノキ、ダケカンバ	16~21	40																			
亜高	ブナ	7~14	30																			
低木	オオカメノキ	2~6	20																			
草本	チマキザサ	0.1~3.5	90																			



凡例

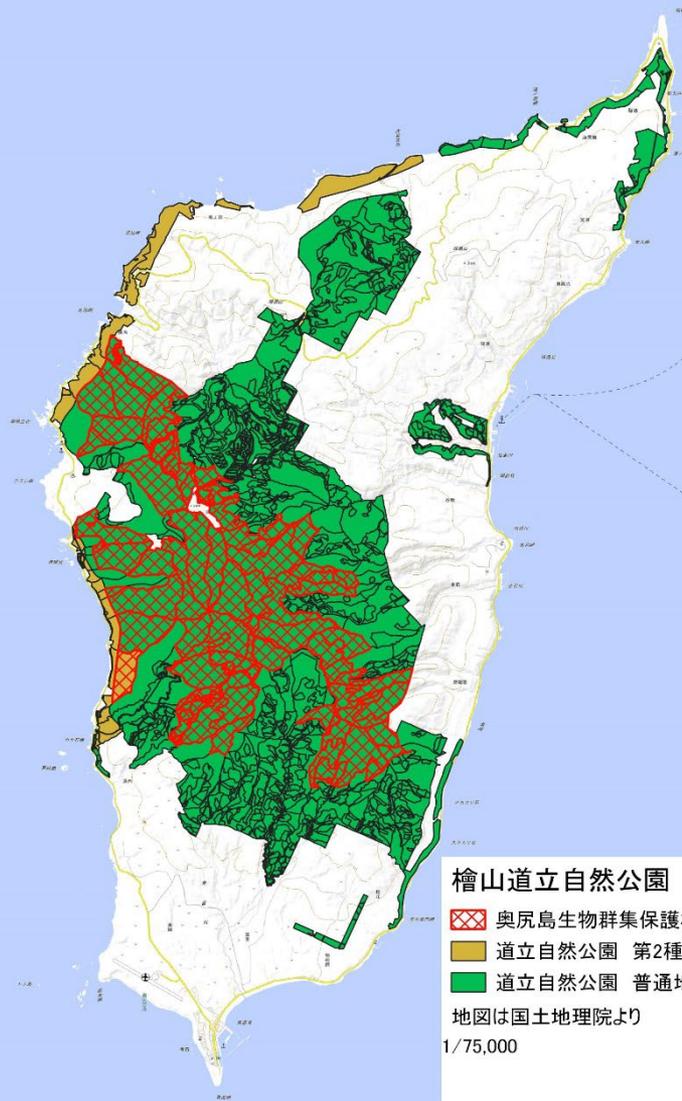
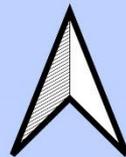
- R4調査プロット位置
- 森林生態系多様性基礎調査地点
- 調査対象保護林
- 行政区域

下図画像: 国土地理院 全国最新写真
(シームレス)
2017年6~7月撮影

檜山道立自然公園 区域図 (一部抜粋)

本保護林の全域が檜山道立自然公園に含まれており、第2種特別地域及び普通地域に指定されている。

檜山道立自然公園 地種区分



20019 奥尻島生物群集保護林 (2,285.33ha)

提 案

<p>保護林設定 目的と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奥尻島のブナを主体とする天然林に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持等に資することを目的とする。 ・平成8(1996)年4月1日に、「奥尻植物群落保護林」として設定された。 ・平成24(2012)年4月1日に保護林区域が拡充された。 ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「生物群集保護林」として設定された。
<p>保護対象と 生息・生育 区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奥尻島の生物群集を有する森林
<p>想定される 影響等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護林の全域が檜山道立自然公園に含まれる。 ・保護林の外周は、大部分が天然生林および育成天然林に囲まれているため、保護林区域への環境の急激な変化は想定されないものとする。 ・一部、人工林に接している箇所があるため、その箇所を施業する場合は、留意する必要がある。
<p>地帯区分 (案)</p>	<p>全域、保存地区とする。</p>

